

社会交流会館の展示物を紹介する仙石さん



瀬戸内市の国立ハンセン病療養所・長島愛生園の歴史館と邑久光明園の社会交流会館に4月から、常勤の学芸員が1人ずつ新たに加わった。両園ともこれまで学芸員は各1人だったが、歴史の語り部である入所者が高齢化

する中、国が全国の療養所で学芸員を増員できるように予算化。長島では療養所の世界遺産登録を目指す運動も進められており、2人の学芸員は歴史の掘り起こしや若い世代への継承を担っていく。

岡山、広島県内の中学・高校に美術や理科の講師として勤め、ハンセン病問題との関わりはほとんどなかった。転機は、邑久光明園の太田由加利学芸員の知人から「学芸員を探している」と聞いたことで訪れた。大学時代に学芸員の資格を取っていた。
昨年夏に初めて光明園を訪問。厳しい人権侵害

ハンセン病療養所 学芸員が着任

邑久光明園社会交流会館・仙石祐子さん(38)＝岡山市

生き抜いた強さに感銘

の歴史を知る一方、入所者から「ここに来たから穏やかな生活を送れた」という感謝の言葉を聞いた。入所者にそう思わせるほど社会の差別が激しかった事実に驚いた。
「同じ過ちを繰り返さないために正しい知識を伝える重要性を感じた」。勤めていた高校を辞め、今年1月から社会交流会館で非常勤職員として働き、4月から常勤となった。
「島に隔離されたかわいそうな人たち」という入所者への一面的な見方は変わった。ハンセン病で手指の末梢神経を侵された全盲の人が感覚の残る舌で点字を読む姿に感銘を受けた。基石をつかめず、スプーンの上に乗せて器用に碁を打つ人にも驚かされた。
講師の経験を生かし、来園者にも分かりやすい説明を心掛ける。「園の歴史だけでなく、入所者が生き抜いてきた強さも語り継ぎたい」と話す。(森田奈々子)

全県版

瓦 (株)小野
倉敷市真備町川